

## 令和 8 年第 1 回幸手市議会定例会 市政に対する一般質問通告書（通告順）

発言 順位	議席 番号	氏 名	質 問 事 項	質 問 要 旨
1	4	芦 葉 弘 志	1 介護問題について	<p>高齢化が進む中で、家族による介護の負担が大きな課題となっている。幸手市においては大変きめ細かく介護支援体制を整えていただいておりますが、令和 7 年 1 月時点での高齢化率が 35.9%（住民基本台帳 R7,1）であるということで、介護を必要とする方はもちろん、その家族の支援体制の充実は喫緊の課題であると考えます。特に現役世代が親の介護を担う「ダブルケア」や「老老介護」が増加しており、働きながら介護を続ける方への支援強化が求められている。</p> <p>(1) 要支援・要介護認定者数の現状と将来推計について伺う。 (資料提供希望)</p> <p>(2) 本市における家族介護者の現状をどのように把握されているのか伺う。</p> <p>(3) 介護する家族への相談支援や、負担軽減のための取組を現在どのように実施しているのか伺う。</p> <p>(4) 家族の介護支援がきめ細かく行われていたとしても、働きながら介護を行うことはとても大変なことである。職場に制度があっても理解があったとしても、仕事自体そのものが家族のケアを許さないケースが多く、やむなく離職を選択せざるを得ないケースもあると思う。このような課題に対する受け止めと考え方について、また今後の方向性について伺う。</p>

			<p>2 人口減少対策について</p>	<p>(5) 介護問題については、就労についても考えると生きがいから、介護予防にもつながると考えるが、高齢者の就労支援について市としての見解を伺う。</p> <p>(6) 介護問題については、生涯学習・スポーツ活動の支援から、介護予防にもつながると考えるが、高齢者のそれらの支援について市としての見解を伺う。</p> <p>(7) 介護問題については、認知機能の低下から、要介護になるケースもあると思うが認知機能低下予防についての支援について市としての見解を伺う。</p> <p>(8) 埼玉県入間市では、令和4年7月1日入間市ヤングケアラー支援条例が制定され、さいたま市でも令和4年7月1日ケアラー支援条例が制定されている。幸手市でもこのような支援条例が必要な時期にきていると考えるが市の見解を伺う。</p> <p>わが国の人口は平成20年(2008年)をピークに減少傾向に転じ、多くの自治体が本格的な人口減少社会の到来を迎えている。市の人口も少子高齢社会の進展により、平成7年(1995年)をピークに減少に転じ、特に自然増減(出生・死亡)における減少が大きくなっている。現在の人口推移をもとに推計を行うと、令和10年(2028年)には約46,200人と推計されている。また、将来人口の構成は、年少人口比率および生産年齢人口比率が減少し、老年人口比率のうち、特に後期高齢者人口比率は増加することが想定されている。</p> <p>(1) 市がおこなっている人口減少対策について伺う。</p>
--	--	--	---------------------	---

				<p>(2) 幸手市における、人口の変動の死亡数と出生数の差による「自然増減」と、流出数と流入数の差による「社会増減」の過去20年間の推移を伺う。(資料提供お願いします)</p> <p>(3) 茨城県境町では「子育て支援日本一を目指すまち」を指針に掲げ、その柱となっているのが、移住定住促進住宅事業「アイレットハウス」の推進。PFI方式を活用して建てられた町営住宅で、戸建住宅の場合、25年住み続けると住宅と土地が無償で与えられる制度がある。このような人口増加施策について市の考えを伺う。</p> <p>(4) 茨城県五霞町では、移住・定住を希望する、子育て・新婚世帯のための新築賃貸住宅を整備子育て支援住宅「ひだまりレジデンスⅠ・ひだまりレジデンスⅡ」(マンション)を整備している。3LDK・家賃70,000円～73,000円。子育て・新婚世帯住宅に優しいポイントとして、リビングに3枚引込み戸(洋室との一体利用で約20帖)・対面式キッチン・広めの浴室(1坪)・多目的収納・大きな下駄箱・1階居住者専用庭付き。共有部分にはオートロック・エレベーター・防犯カメラなど設備が充実している。さらに入居者1世帯あたり最長30年間、月額10,000円を助成する制度も確立した。このような人口増加施策について市の考えを伺う。</p> <p>(5) 岡山県総社市では2014年から幼稚園から中学校までが連携して、一貫性のある特別な英語教育を提供することで、豊かなコミュニケーション能力と国際的な視野を育む人材を育成することを目指して教育を進めている。その結果「英語教育特区」として、9年間で250時間多くの時間を英語教育に費やし、その分、ALTを交えてのスピーチやプレゼンテーションの時間が多く取られていた。その英語授業を受けるために、市外や県外から移住者も多くあり、人口増加に</p>
--	--	--	--	---

			<p>3 防災対策について</p>	<p>むすびついている。このような人口増加施策について市の考えを伺う。</p> <p>(6) 千葉県流山市は「マーケティング課」を全国で初めて設置した自治体ですが、子育て支援政策に力を入れると同時に、その取り組みを若い世代に向けてPRした結果、多くの移住者を呼び込むことに成功した。人口増加率は平成28年から令和3年までの6年間で全国トップになり、人口も10年間で16万人から21万人へと大幅に増えている。このような人口増加施策について市の考えを伺う。</p> <p>令和8年1月6日10時17分 ごろ島根県・鳥取県で最大震度5強を観測した地震が発生した。13日午前6時までの1週間に、震度3以上の地震が21回発生している。大雪や厳しい寒さに見舞われる時期であり気象庁も日頃からの備えについて注意喚起している。</p> <p>(1) 近年、国内では自然災害が多発するようになり、防災アプリを導入する自治体が増えている。防災アプリには、災害情報や避難所の情報を提供するものがある。災害に役立つと言われる、防災アプリの導入について市の見解を伺う。</p> <p>(2) (1) の防災アプリを導入した場合の予算額について伺う。</p> <p>(3) 防災アプリについて導入した場合のメリットデメリットを伺う。</p> <p>(4) 新潟県小千谷市では、中越大震災をきっかけに、FMながおかの電波を利用して緊急告知ラジオを、市内の全世帯と事業所に配置している。このような緊急告知ラジオは防災無線に比べて自宅にいても情報がつかみやすいと感じるが市の見解を伺う。</p>
--	--	--	-------------------	--

				<p>(5) (4) の緊急告知ラジオは国の補助金も活用できると思うが、導入した場合の予算額について伺う。</p> <p>(6) 近年、防災無線を廃止して、スマートフォンの防災アプリをメインの伝達で稼働させ、スマートフォンを所有しない世帯に緊急告知ラジオを市の補助金を活用して配布する自治体も増加している。このような取り組みについて市の考えを伺う。</p> <p>(7) 令和6年7月26日 首都直下地震帰宅困難者等対策連絡調整会議発行の事業所における帰宅困難者等対策ガイドラインによると、行政機関や事業所では、帰宅困難者対策のために3日分の災害備蓄品を用意する事が推奨されておりますが、本市における備蓄状況を伺う。(資料提供お願いします)</p> <p>(8) 事業所における帰宅困難者等対策ガイドラインには、三菱商事本社でおこなわれた、帰宅困難者対策訓練が掲載されている。このような訓練が本市でも必要と考えるが市の考えを伺う。</p> <p>(9) 羽生市議会では、令和7年9月5日の本会議終了後、災害対応に対する意識の醸成と対応行動の習得を図るため、防災訓練を実施している。市議会と執行部が協力して、このような訓練が必要と考えるが市の考えを伺う。</p>
2	3	宮澤大地	1 地域活動の担い手不足について	<p>地域を支える消防団、夏祭りの運営、登下校の見守り活動など、地域に根ざした活動を担う方々の高齢化や人員不足が進んでいます。このような活動などは地域の安全や文化を守る上で欠かせないものです。その担い手をどう確保し、次世代に繋いでいくかは大きな課題であることから、本質問をいたします。</p>

			<p>2 防犯設備を含めた市の防犯対策の取組について</p>	<p>(1) 各地で消防団員の減少や高齢化が進む中、若手団員の参画を促すため、幸手市としてどのような取り組みを行っているのか伺います。</p> <p>(2) 幸手夏祭りの担い手について、若年層を運営側に呼び込むため、幸手市としてどのような取り組みを行っているのか伺います。</p> <p>(3) 幸手夏祭りを始め、地域活動の将来の担い手を育てるため、小中学校における啓発や関わりづくりも重要であると考えますが、市の見解を伺います。</p> <p>(4) 小学校の下校の安全を支えるスクールガードによる見守り活動について、ボランティアの高齢化により担い手不足や負担が大きいと考えます。市は現状をどのように把握しているのか伺います。</p> <p>日々、市民の皆さまとお話をする中で、防犯に対する不安の声を聞く機会が増えてきました。住宅への侵入被害や、公園・通学路における子どもの安全など、いずれも日常生活に直結する身近な場面での不安であり、誰もが被害に遭う可能性のあるものだと感じています。このような生活をしていく中での実感と、実際の犯罪発生状況を踏まえた上で、幸手市の防犯対策がどのような考え方で進められているのか、質問をいたします。</p> <p>(1) 近年の幸手市内における犯罪の発生状況・件数について、特に住宅侵入を始めとする犯罪の傾向を含め、市としてどのように把握しているのか伺います。</p> <p>(2) 犯罪発生状況を踏まえ、公園や公道、通学路など公共空間を見守る防犯カメラなどの設備について、幸手市としてはどのような役割</p>
--	--	--	--------------------------------	---

				<p>を担うものと考え、今後どのような考え方で整備を検討していくのか伺います。</p> <p>(3) 住宅や店舗、事業所など、民間による防犯設備が、現状では街の防犯の多くを担っているとも感じています。近隣自治体では、民間の防犯設備を含めた取り組みも進められていますが、こうした民間の防犯力について、本市としてはどのように捉え、今後の防犯対策の中でどのように位置づけていく考えなのか伺います。</p>
3	6	坂本達夫	<p>1 旧香日向小学校の賃貸借契約について</p> <p>2 幸手市庁舎整備敷地を「現庁舎敷地」と決定したことについて</p>	<p>(1) 旧香日向小学校の概要（土地、建物）を伺う。</p> <p>(2) 旧香日向小学校賃貸借契約の内容（相手先、対象範囲、期間、賃貸料）を伺う。</p> <p>(3) 賃貸料について、近隣物件とのバランスを木村純夫市長に伺う。</p> <p>(4) 適正な財産評価（不動産鑑定）が行われているか木村純夫市長に伺う。</p> <p>(5) 適正な賃貸料で貸し出しが行われているか木村純夫市長に伺う。</p> <p>(6) この契約をできるだけ早く解除し、行政財産に改め、市役所施設の一部として活用すべきと思うが、木村純夫市長の見解を伺う。</p> <p>(1) 決定に至るまでの日程的な経緯を木村純夫市長に伺う。</p> <p>(2) 市のホームページには、「庁舎整備特別委員会での調査及び庁舎の在り方審議会の答申を経て、庁舎整備地を現庁舎敷地と決定した」</p>

			<p>3 大きな地震により倒壊の危険のある市役所本庁舎の問題について</p> <p>4 市道の総延長と整備費用について</p>	<p>とある。ここでの庁舎整備特別委員会での調査とは、現庁舎敷地に決定とどう関係するのか、木村純夫市長に伺う。</p> <p>(3) 「現庁舎敷地」と決定したのは、いつ、だれが決定したのか、木村純夫市長に伺う。</p> <p>(4) 「現庁舎敷地」と決定したのは、どういう理由で決定したのか、木村純夫市長に伺う。</p> <p>(5) 「現庁舎敷地」と決定するに当たり、議会や市民の意見は聴く必要はないと考えているのか、木村純夫市長に伺う。</p> <p>(1) 幸手市は、昨年9月に9都県市合同防災訓練を実施した。その訓練では、震度6強の地震で倒壊した建物から人を助け出す訓練も行われた。幸手市はそこで得られた教訓を生かして、市役所本庁舎を使用禁止とすべきではないか。木村純夫市長の見解を伺う。</p> <p>(2) 木村純夫市長は、倒壊の危険のある本庁舎の問題をいつ、どのように解決しようとしているのか伺う。</p> <p>(3) 白岡市は、昨年5月庁舎を焼失してから半年ほどで、プレハブの庁舎を建設した。木村純夫市長は、本気で市民の命、職員の命を守る覚悟はあるのか伺う。</p> <p>(1) 市道の総延長を伺う。</p> <p>(2) 道路は、一般に何年に一度、再舗装する必要があるのか伺う。</p>
--	--	--	---	--

			5 幸手市シティプロモーション映画について	<p>(3) 理想的に考えて、道路舗装に必要な毎年の舗装費用を伺う。</p> <p>(4) 現実的な予算として、毎年いくらの金額が舗装費用として確保されているか伺う。</p> <p>(1) 市のホームページ中に一般オーディションに挑戦しようという項目がある。その応募条件に「一人で入室し、決められたセリフで演技披露ができる人」という文言がある。この条件は、言語表現に障害のある人は、映画に出演させないという意味か、木村純夫市長に伺う。</p>
4	2	小 泉 圭 司	1 市長が示す幸手市の将来ビジョンと今後の市政運営の方向性について	<p>市長の二期目の市政運営が進む中で、幸手市が今後どのような方向性を示し、どのような将来像を描いていくのかは、市民生活に直結する重要な課題であると考え。人口減少や高齢化、公共施設の老朽化、財政運営など、様々な課題が重なる中で、市としての明確な方針を示すことにより、市全体として同じ目標に向かって取り組む体制が整うものと考え。そこで、以下の点について市長の考えを伺う。</p> <p>(1) 人口減少への基本姿勢について</p> <p>(2) 女性・子ども支援について</p> <p>(3) 高齢者に対する支援の考え方について</p> <p>(4) 公共施設と財政運営の将来方針について</p> <p>(5) 権現堂桜堤の魅力維持と景観保全について</p>

			<p>2 公共交通再編に伴う移動手段確保と今後の交通政策の方向性について</p> <p>3 ふるさと納税PRの新たな手法について</p>	<p>公共交通は、高齢者の移動手段であると同時に、通院、買い物、就労、産業振興を支える基盤インフラであり、今回のデマンドタクシー終了と循環バス再編は、市民生活に大きな影響を与える制度変更であることから以下について伺う。</p> <p>(1) デマンドタクシー終了から循環バス再編までの空白期間対策</p> <p>(2) 地域公共交通あり方検討会の継続性と改善プロセス</p> <p>(3) 需要調査の実施の有無と内容</p> <p>(4) 杉戸高野台駅への接続について</p> <p>(5) 産業団地と雇用を支える交通政策</p> <p>(6) AIデマンド交通とタクシーとの役割分担と過去のデマンド交通との違い</p> <p>(7) 五霞町役場行き路線の情報共有</p> <p>(8) 東鷲宮駅アクセスと検討会意見の扱い</p> <p>(1) ふるさと納税は本市の重要な財源確保策である。本市には毎年、権現堂桜堤に多くの観光客が訪れる。観光客が権現堂を通じて幸手市の特産品を知り、ふるさと納税への関心を高められる仕組みとして、駅や権現堂など人の集まる場所に“ふるさと納税PR自販機”を設置する社会実験を検討してはどうかとの声がある。 この取組について、市の見解を伺う。</p>
--	--	--	--	---

			<p>4 夕方子ども帰宅放送における高齢者への呼びかけ追加について</p>	<p>(1) 本市では夕方に「子ども帰宅放送」を実施しているが、高齢化が進む中で、放送内容に高齢者への注意喚起や励ましの一言を加えることで、地域のつながりづくりや見守りの効果が期待できると考える。</p> <p>現在の放送内容に、高齢者へ向けた簡単な呼びかけを追加することを検討する考えがあるか、市の見解を伺う。</p>
5	1	高野優一	<p>1 日本保健医療大学（南キャンパスも含む）について</p>	<p>平成 20 年 3 月に設置準備会において文部科学省に大学設置申請及び学校法人設立申請を行い、翌 4 月に市有財産無償譲渡契約書及び使用貸借契約書並びに大学設置合意書に関する覚書を締結し、同年 8 月に旧幸手東小学校改修工事に着手。</p> <p>開校は、平成 21 年 10 月に大学の設置及び学校法人共済学院の設立が認可され、当初の予定より 1 年遅れ、平成 22 年 4 月に保健医療大学保健医療学部看護学科として定員 400 人で開校しました。また、平成 25 年 3 月に閉校した埼玉県立幸手高等学校の校舎を改修し、平成 29 年 4 月に同学部に理学療法学科が開設されました。</p> <p>そこで改めて伺います。</p> <p>(1) 大学設置の経緯を伺います。</p> <p>(2) 開校から現在までの各年度、学部、学科、学年の学生数を伺います。</p> <p>(3) 直近 5 年の入試の応募状況を伺います。</p> <p>(4) 直近 5 年の就職状況を伺います。</p>

			<p>2 若年層の定住策について</p>	<p>(5) 包括的連携協定締結後の具体的な取組み、目標の達成率を伺います。</p> <p>(6) (5) における更なる連携強化を期待するが、市の意気込みを伺います。</p> <p>少子高齢化や人口減少は多くの自治体にとって喫緊の課題であり、幸手市も例外ではありません。幸手市では、人口減少対策として、子育て支援や婚活支援、住まいに関する補助など、多岐にわたる取組みを行っており、知恵を出し合っておられる執行部の皆様には敬意を表すところです。そこで改めて伺います。</p> <p>(1) 幸手市の少子・高齢化の現状を伺います。</p> <p>(2) 直近5年間の年代別の転入・転出状況を伺います。(資料求める)</p> <p>(3) 若年層の定住策を伺います。</p> <p>(4) 若年層にとって仕事の確保は定住の最も重要な要素です。U・Iターンを検討する若者が多い中で、地元の企業と連携し、移住者向けの求人情報提供や起業支援を行うことが求められますが市の見解を伺います。</p> <p>(5) 婚活支援の更なる充実が必要と考えるが市の見解を伺います。</p> <p>(6) 充実した子育て環境は、子育て世帯が住む場所を選ぶ上で非常に重要な要素です。そこで更なる充実が必要と考えるが市の見解を伺います。</p>
--	--	--	----------------------	---

6	15	大 平 泰 二	1 水道行政について	<p>(1) 市水道配水量の内、県水・地下水の配水量及び比率について伺う。 (過去 20 年間資料提出)</p> <p>(2) 県水使用量にともなう年度毎の支払い額の推移について伺う。(過去 20 年間資料提出)</p> <p>(3) 供給単価・給水単価・給水人口の推移 (過去 20 年間資料提出)</p> <p>(4) 第一 (3 基)・第二浄水場 (6 基) 地下水揚水ポンプの 1 日当たりの最大汲み上げ量 (性能曲線から) について伺う。</p> <p>(5) 県水が断水となった場合の 1 日あたりの地下水の汲み上げ量について伺う。</p> <p>(6) 第一・第二・配水管のそれぞれ減価償却費の内訳について伺う。</p> <p>(7) 県水は 12 円 96 銭値上げ 1 m<sup>3</sup> 74.74 円に。幸手市はさらに 85 円 26 銭値上げして 160 円としている。口径 13mm で 1 カ月 20 m<sup>3</sup> 使用した場合約 1000 円の値上げとしています。下水と合わせた支払い時には 4000 円の料金負担増になります。これらの緩和措置について検討されているか伺う。</p> <p>(8) 県水を減らし地下水を増やした場合の水道料金の推移について伺う。また地下水のみの供給単価の検討について伺う。</p> <p>(9) 将来的に減価償却費を減らし地下水を無くし県水のみで配水した場合の水道料金の検討について伺う。</p>
---	----	---------	------------	--

			<p>2 駅西口土地区画整理について</p> <p>3 学校給食の無償化について</p> <p>4 中川排水機場移管について</p> <p>5 香日向歩道問題</p>	<p>(10) 無収水量、漏水等量を減らす考え方について伺う。</p> <p>(1) 見直し案の概要について伺う。</p> <p>(2) 各事業毎の進捗率と予算の推移を伺う。</p> <p>(1) 令和8年度からの実施内容について伺う。</p> <p>(2) 新規事業は暫定予算の対象とはならないとの報道もあるが歳入見込みについて伺う。</p> <p>(3) 米の購入先について伺う。</p> <p>(1) 市長は以前「スピード感をもって移管を進める」としていたが、その後の進捗状況について伺う。</p> <p>(2) 幸手市が管理する他の排水機場の運営について伺う。</p> <p>(1) 香日向中央通り3丁目通り歩道が凸凹で危険との声が寄せられています。市の対応を伺う。</p>
7	8	枝久保喜八郎	<p>1 公共施設の利用制度の在り方について</p> <p>2 市庁舎の倒壊リスクについて</p>	<p>(1) 利用料金の変遷について伺います。</p> <p>(2) 申込やキャンセル等、制度システムとの関連で、市民からみた利便性について伺います。</p> <p>(1) 新庁舎への建て替えの考え方について、予算、竣工年度等につい</p>

				<p>て伺います。</p> <p>(2) リスク回避対応について、現実をどのように把握しているか伺います。</p>
8	7	小林 英雄	<p>1 ネーミングライツについて</p> <p>2 市営釣り場神扇池の今後の方向性について</p> <p>3 市指定文化財（無形民俗文化財）について</p>	<p>(1) 埼玉県内、近隣自治体、幸手市におけるネーミングライツの状況について市長に伺う。</p> <p>(1) 観光的な要素が高いと思うが市長の見解を伺う。</p> <p>(2) 幸手市におけるヘラブナ釣りは歴史的にも古いと聞くが、どこまで把握しているか市長に伺う。</p> <p>(3) 釣りは文化であると考え、教育長の考えを伺う。</p> <p>(4) 仮に市営釣り場が廃止となった場合、神扇土地改良区や駐車場地権者に現状復帰をして返すことになるかと考えるが、予算的にはどれくらいになるか市長に伺う。</p> <p>(5) 市営釣り場を存続させるためには何が必要と考えるか市長に伺う。</p> <p>(1) 市指定無形民俗文化財とする基準について伺う。</p> <p>(2) 市指定無形民俗文化財の団体数と名称について伺う。</p>
9	10	松田 雅代	<p>1 幸手市立東小中学校開校前年度の試行に関する時期と責任体制について</p>	<p>(1) 義務教育学校の成功に向け、開校前年度に特に重視して取り組む事項について、教育長の見解を伺う。</p>

			<p>2 市が運行する公共交通について</p>	<p>(2) 義務教育学校の最大の目的は、9年間を通じた系統的・継続的な学びの実現にあると考える。9年間の教育課程は開校前年度中にどこまで具体化し、どのように完成させるのか。また、完成の予定時期を伺う。</p> <p>(3) 公務分掌の再編や教職員の合同研修など、学校組織と指導体制の一体化を開校前年度にどのように進めるのか。</p> <p>(4) 子どもたちや保護者の不安を軽減する取組として、6年生から7年生への円滑な移行を図るための事前交流や、生活ルール・学校生活の見通し、部活動などに関する情報提供が重要と考える。また、これら情報は学校選択の重要な情報となり得る。開校前年度にどのように進めるのか。時期、スケジュールを伺う。</p> <p>(5) 公開授業や授業参観など、実際に学校に訪問して見学できる機会の創出、市内外に取組を積極的に公開することは、東小中学校の適正規模維持・継続性に関する重要要素であると考え、計画はあるか。</p> <p>(1) 新公共交通運行案決定に関する今年度のいろいろな曲折を鑑みると、公共交通施策は協議体制の在り方の見直しが必要と考える。また、「幸手市地域公共交通計画」の内容も常にアップデートを図る必要がある。どのように対応していくか。</p> <p>(2) 幸手市に隣接する鉄道駅への接続については、今後も検討を要望する。市長の見解を伺う。</p>
--	--	--	-------------------------	---

10	5	四本奈緒美	1 電話リレーサービス「手話リンク」の導入について	<p>本市に於いては、現在幸手市手話言語条例（案）の策定が進んでおり、パブリックコメントが実施されている（2月6日まで）。手話が言語であるとの認識に基づく手話言語条例の制定は、市民が手話に対する理解を深め、手話によるコミュニケーションを通し、聴覚や発話に困難がある方が安心してよりよい社会生活を共に営むために寄与するものとなる事を大いに期待するものである。</p> <p>(1) 幸手市手話言語条例の制定の経緯と目的と公布予定日について伺う。</p> <p>(2) 聴覚や発話に困難がある方は、音声通話である電話の利用に不便を強いられていることから、令和2年「聴覚障害者等による電話の利用の円滑化に関する法律」の施行に基づき国の公共インフラとして聴覚や発話に困難がある方の電話利用をサポートする電話リレーサービスがスタートした。加えて、令和7年1月より「文字表示電話サービス（ヨメテル）」も新たに開始された。本市に於いてもこの両サービスのお知らせがホームページに掲載されているが内容を伺う。</p> <p>(3) 聴覚や発話に困難がある方が窓口まで来ることなく、行政サービス（福祉、税金、子育てなど）を電話で相談する際のハードルについて伺う。</p> <p>(4) 昨年4月、電話リレーサービスを使用し、自治体や企業等の問い合わせ窓口に設定した「手話リンク」というシステムがスタートした。Web サイト上のボタンから事前登録なしで手話通訳オペレーターを介し、庁舎窓口へ直接電話できるシステムである。「手話リンク」を導入した場合に、どのような障害が解消され、メリットは何かを</p>
----	---	-------	---------------------------	--

			<p>2 身寄りのない高齢者等の終活 応援について</p>	<p>伺う。</p> <p>(5) 「手話リンク」を導入した場合の費用について伺う。</p> <p>(6) 埼玉県では昨年8月に朝霞市、今年1月に東松山市、2月より所沢市の現在3市が「手話リンク」の利用を開始している。市ホームページの「手話で電話をする」のボタンをクリックすると市の代表を通じて窓口で手話で問い合わせができるようになっている。「手話リンク」を導入することで、聴覚や発話に困難がある方が、場所を選ばず市役所へ直接連絡ができるなど、より生活に密着した利便性の向上が見込めると考える。本市においても「手話リンク」の導入をすべきと考えるが見解を伺う。</p> <p>(7) 「手話リンク」の導入は、「幸手市手話言語条例」の理念を具現化する第一歩となる意義あることと考えるが見解を伺う。</p> <p>一人暮らしで身寄りがなかったり、親族はいるが頼ることが出来ないという高齢者の方から、「今後の生活や死後の手続き等に不安を抱えているが、どこに相談をして何をしたら良いかわからない。」という市民相談を受けることが多くなってきた。</p> <p>(1) 本市において身寄りのない高齢者等とはどのような人と捉えているのか、また、その方たちはどのような生活上の課題を抱えていると認識しているのかを伺う。</p> <p>(2) 本市に於いて身寄りのない高齢者等の相談を受け、抱える生活上の問題を支援する終活応援のシステムはあるかを伺う。</p>
--	--	--	-----------------------------------	--

				<p>(3) 本市では「未来ノートこころ」が発行されている。活用目的、方法、実績、成果等伺う。</p> <p>(4) 第3次幸手市地域福祉計画（素案）には、権利擁護支援の推進が新たに加わった。今後、地域連携ネットワーク体制が構築され、成年後見制度利用が推進されるものと思われるが、（仮称）地域連携ネットワーク協議会（中核機関）の設置スケジュールについて伺う。</p> <p>(5) 厚労省は、成年後見制度（民法）の見直しの検討に対応して、新たな権利擁護支援策構築に向けた「持続可能な権利擁護支援モデル事業」において「身寄りのない人等に対する市町村が関与した新たな生活支援（金銭管理）・意思決定支援に関する取組」を令和4年から補助金を付けモデル事業を実施し、昨年より順次モデル事業の実施事例が報告されている。愛知県岡崎市では本人の選択に基づき、医療施設・福祉施設等への入院入所手続き等の支援や日常生活支援、死後事務等の支援に関するサービスを適正に利用することが出来るよう、岡崎市成年後見支援センターにコーディネーターを配置するなど相談窓口を整備し、包括的な相談支援や支援のコーディネート、関係機関・関係者とのネットワークを構築し、終活応援事業を開始している。また、埼玉県ふじみ野市では、①見守り契約②事務委任契約③死後事務委任契約の3つをパッケージで提供する、本人に寄り添った意思決定支援「ふじみ野みらいサポート」を昨年開始した。本市もこのような取り組みを参考にして、身寄りのない高齢者等の終活支援を行うことが必要と考えるが見解を伺う。</p>
1 1	1 2	本 田 謡 子	1 市主催の催しの来賓人選について	<p>(1) 市主催で来賓をお招きする催しを、具体的に伺う。</p> <p>(2) その来賓の人選にきまりがあるのかを伺う。</p>

			2 避難所について	(3) その人選の責任者は誰かを伺う。
				(1) 避難には自宅避難と避難所避難があるが、その線引きなどを伺う。
				(2) そのことが市民に周知されているのかを伺う。
				(3) 市民への周知に関し、今後の対策を伺う。
			3 ハラスメント調査について	(1) ハラスメント防止マニュアルの進捗状況を伺う。
				(2) ハラスメントアンケート調査実施について、進捗状況を伺う。
				(3) 今後の予定を伺う。
1 2	9	木 村 治 夫	1 農業振興について	(1) 千塚地区農用地編入後の進捗状況について伺います。
				(2) (1) の今後の農業生産基盤整備にむけた具体的施策について伺います。
				(3) (1) の用排水路整備について伺います。
				(4) (1) の近辺陸田、畑地利用した、新たな市民農園等の整備について伺います。
			2 災害対策について	(1) 地震時、生活用水確保の為の災害井戸整備進捗状況について伺います。
				(2) 今後の整備に向けた具体的施策について伺います。

			3 令和8年度一般会計予算について	(3) 令和8年度中に整備できるのか伺います。  (1) 総務関係予算の重点施策について市長に伺います。  (2) 文教関係予算の重点施策について市長に伺います。  (3) 厚生関係予算の重点施策について市長に伺います。  (4) 建設関係予算の重点施策について市長に伺います。  (5) 経済関係予算の重点施策について市長に伺います。
--	--	--	-------------------	--